

Secure ClientのVPNモジュールのディセーブル化

内容

[はじめに](#)

[Secure ClientにおけるVPNモジュールの要件](#)

[VPN機能を無効にする方法](#)

[インストール中のVPNモジュールの無効化](#)

[Windows](#)

[MacOS](#)

[インストール後のVPNモジュールの無効化](#)

[検証](#)

はじめに

このドキュメントでは、DNSトラフィックの代行受信が機能し続けることを保証しながら、Secure ClientでVPNモジュールを無効にする方法について説明します。

Secure ClientにおけるVPNモジュールの要件

AnyConnectがVPNアクセスに使用されていない場合でも、VPNモジュールはSecure Clientの必須コンポーネントです。Umbrellaは、DNSトラフィックの代行受信と管理を共有セキュアクライアントドライバに依存しています。VPNモジュールのインストールは必須ですが、VPN機能を完全にディセーブルにできます。

VPN機能を無効にする方法

Secure ClientのVPN機能をディセーブルにするには、次のコマンドを使用します。

- ・ インストール時にインストール引数(Windows)を使用するか、インストール・パッケージ(OSX)を変更します。
- ・ インストール後に、エンドポイントに設定プロファイルを展開します (プログラムで展開可能)。

インストール中のVPNモジュールの無効化

Windows

1. インストール中にMSI引数PRE_DEPLOY_DISABLE_VPN=1 を使用して、VPN機能を無効にします。
2. 詳細については、「[Cisco Secure ClientのWindowsインストールのカスタマイズ](#)」を参照してください。

MacOS

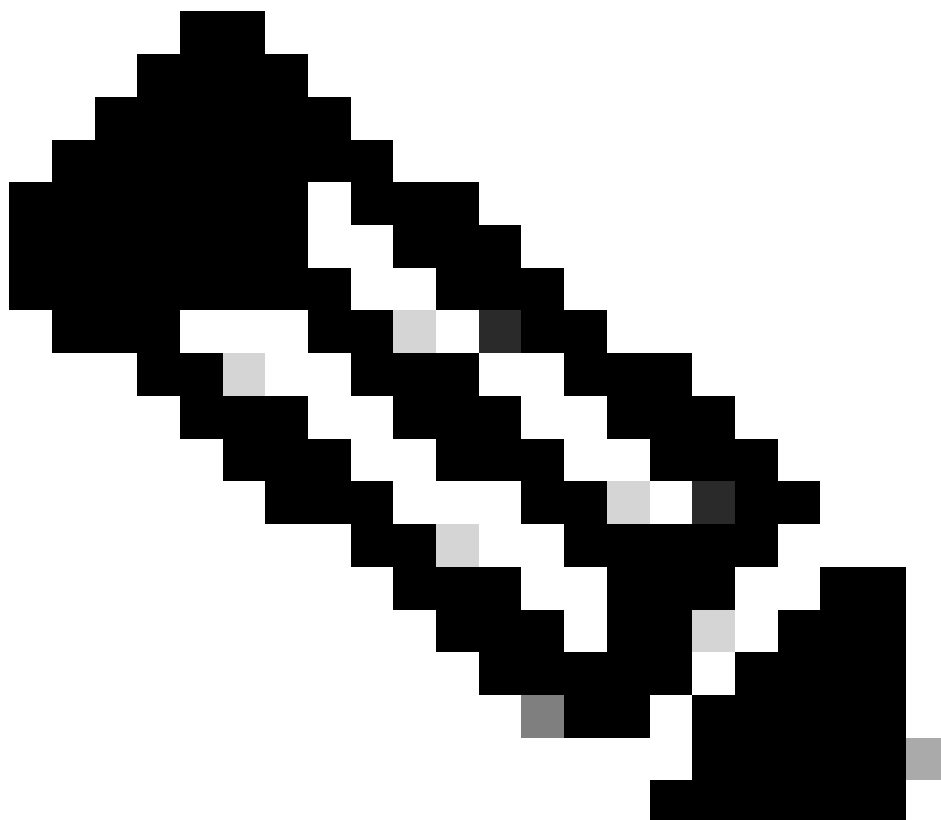
1. VPN機能の有効化を制御するACTransforms.xmlファイルを使用して、インストールパッケージ(.DMG)をカスタマイズします。
2. 詳細については、「[Cisco Secure ClientのMacOSインストールのカスタマイズ](#)」を参照してください。

インストール後のVPNモジュールの無効化

1. エンドポイントのプロファイルディレクトリに移動します。

- Windows :

C:\ProgramData\Cisco\Cisco Secure Client\VPN\Profile\



注:Windowsでは、ProgramDataフォルダはデフォルトで非表示になっています。必要に応じて、Windowsエクスプローラに直接パスを入力します。

-
- macOS:

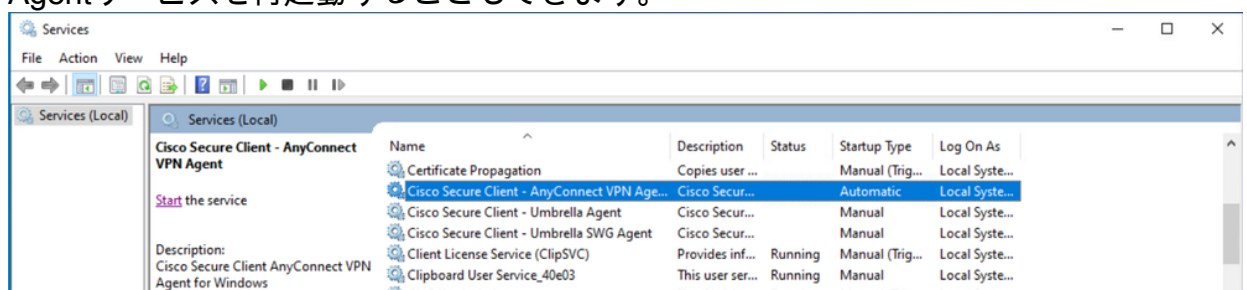
/opt/cisco/secureclient/vpn/profile/

2. 新しい空白のテキストドキュメントを作成します。
3. 指定されたXMLコンテンツをドキュメントにコピーし、VPNDisable_ServiceProfile.xmlとしてProfileフォルダに保存します。

true

4. プロファイルフォルダにVPNDisable_ServiceProfile.xmlファイルを保存した後、コンピュータを再起動します。

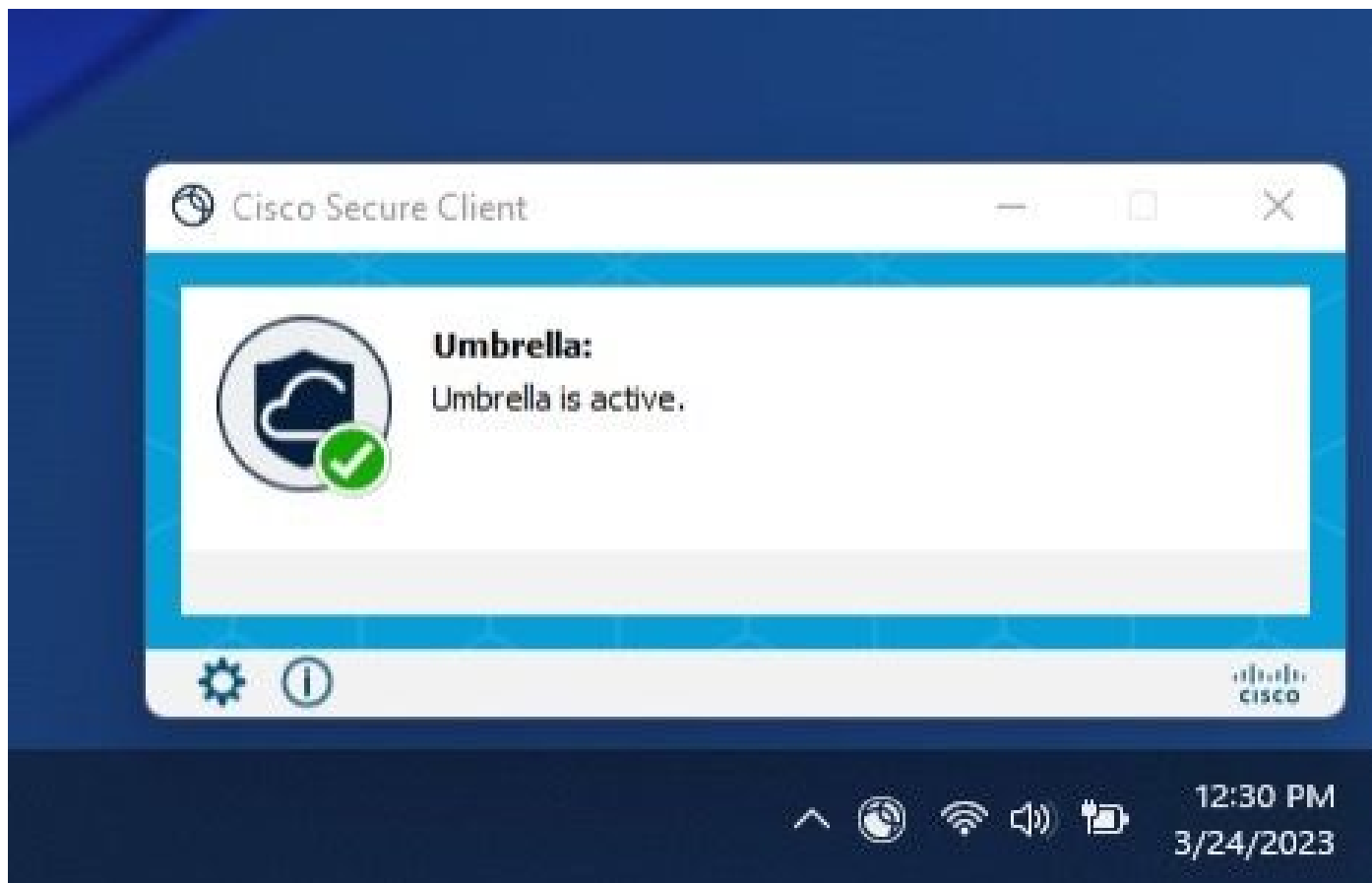
- Windowsでは、Windowsサービスを使用してCisco Secure Client - AnyConnect VPN Agentサービスを再起動することもできます。



18212956792980

検証

再起動後、セキュアクライアントのグラフィカルユーザインターフェイス(GUI)を起動して、VPNモジュールが無効になっていることを確認します。



18212229472020

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。